

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375601446		
法人名	株式会社 森津介護サービス		
事業所名	グループホーム森津 かめユニット		
所在地	愛知県弥富市烏ヶ地2-176-3		
自己評価作成日	平成29年9月1日	評価結果市町村受理日	平成30年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2375601446-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成29年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園地帯の広がるのんびりとした環境の中にホームは立地している。敷地内には遊歩道や、足湯が設置されており、居室やリビングなどから常に緑・自然を肌で感じることができる造りとなっている。ご利用者様は自由に遊歩道を散歩されたり、草とりや園芸を楽しむことができる。ウッドデッキにはベンチが設けられており、腰掛けられてはご利用者様同士で昔話をされたり、故郷の話を楽しまれたり、のんびりと過ごされている。内科の往診だけでなく、認知症専門医の往診も月に1回ありご利用者様が安心して生活が送れるよう努めている。月に1回以上は外出機会を設けており、外食や買い物などの支援も行っており、地域に馴染んだホームづくりを展開している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

関連ホームと合同で開催している行事の際には、広い庭を活用した様々な行事が行われており、多くの家族の参加が得られ、家族との交流を深めながら、要望等の把握につなげる取り組みが行われている。当ホームについては、共用型デイサービスを実施しており、地域の方の受け入れや地域包括支援センターや居宅介護支援事業所との情報交換の機会が増えている。利用者の中には、デイサービスの利用を継続しながらホームへの入居にもつながっており、利用者、家族にとっては、生活環境の変化を抑えながら移行することが可能であるため、大きな安心感にもつながっている。また、ホームの独自の取り組みとして、内科医の他にも認知症専門医による定期的な訪問診療が行われていることであり、重度の認知症の方や対応が困難な方についても専門医からの支援が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	日々、目の届く場所に掲示し、できる限りスタッフひとりひとりが実践できるよう心がけている。	法人の基本理念をもとに、各ホームで独自の理念をつくっており、ホーム内への掲示が行われている。職員会議等の機会に理念について話が出る等、職員間での理念の共有と実践につなげる取り組みが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	定期的に地域の学生の皆様に慰問していたり、交流を図っているほか、地域のボランティアの方々にも来ていただいている。また、地域で開催されている祭りにも参加し、地域に出た活動も行なっている。	地域の町内会に入り、地域の行事への参加等、交流の機会をつくっている。ホーム移転後、地域の方との交流が徐々に深まっており、ホームに訪問される機会も得られている。また、地域の中学校の生徒の受け入れは継続的に行われている。	共用型デイサービスを開始したこともあり、新たな交流の機会にもつながっている。地域の方にホームの取り組みを知ってもらえる機会が増えることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	弥富市地域包括支援センター主催の他職種研修会に参加し、地域包括ケアシステムの構築の為、病院側との連携を図ったり、地元の福祉科高校に招かれ、認知症理解への講義を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	活動報告を行い、ご家族様のご意見等を交えながら、サービスの向上に向けた努力を行なっている。	会議の際には、各ユニットの運営状況を報告しており、出席者にホームを知ってもらう取り組みが行われている。ホームの行事の前に会議を行うこともあり、多くの方にホームの取り組みを知ってもらう機会をつくっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	毎月弥富市が主催している調整会議への参加や、サービス内容等の相談を適宜行いながら、協力関係構築に努めている。	市の連絡会議の際には、ホームからも職員が出席しており、情報交換の機会をつくっている。また、デイサービスを始めたことで、地域包括支援センターとの情報交換の機会が増えており、協力関係が深まっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	各ユニットステーション内に身体拘束のマニュアルが配置されており、職員がいつでも目を通すことができるようになっており、身体拘束を必要としないケアが実践できるよう努めている。施錠など極力せず、安全に生活していただけるよう工夫している。	身体拘束を行わない方針を掲げ、ホーム内には施錠を行っていない。ホーム内の整備を進め、庭に自由に出入りができるようにしている。また、ホーム内で研修会の機会をつくり、職員の振り返りの機会につなげる取り組みも行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員同士で声を掛け合い、協力しながら見過ごされることのないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度を利用されている方もご利用者様の中にはいるものの、制度内容を職員が理解しているかは不明。入居相談時等、必要性が考えられる方については、制度を紹介することもある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前に必ずホームにお越し頂き、不安なことなど十分に話し合いを行なっている。また、契約時にも時間を十分にとり、説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱の設置をしている。また面会時など、ご家族様の要望など意見を聞くようにしている。運営推進会議等からご家族様の意見が出ることもあり、運営改善に繋がられるよう努めている。直接お電話にて話していただける方もいる。	ホームの行事の際には、家族にも案内を行っており、交流の機会をつくっている。家族からの要望については、各事業所のホーム長の他、管理者でもある法人代表者も対応する体制がつけられている。また、定期的なホーム便りの取り組みも行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年2回及び必要時(職員が不安を感じている時など)は面談を行なっている。	定期的なユニット会議を通じて職員間で意見交換を行い、現場からの意見等は各事業所のホーム長が集まるホーム長会議等で検討されている。また、ホーム長による職員の個別面談が行われており、職員一人ひとりの意向等が法人代表者に報告されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各々の家庭事情(母子家庭・子供が幼い等)を考慮しながら、休みや夜勤等の配慮を行なっている。また、外部研修・慰労金の導入、休憩室の確保等を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人外の研修については掲示し、希望を募っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市への調整会議への参加や、同業者主催の交流会、勉強会への参加を行なっている。また、市内同業種の推進会議に参加し、意見交換の場を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	導入前にご本人様に面談を行い、ご本人様の思いを汲み取り、導入時に安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約前より、(待機者や待機で無い方の)認知症の相談を受け付けたり、病院の紹介、受診の同行等を行い、不安の緩和及び関係維持に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ホーム入所だけでなく、他のサービスも視野に入れながら、ご家族様とホームへの入居についての意向を確認しながら慎重に進めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人様の出来ることや得意なこと(草むしり・食事づくり・洗濯たたみ等)は手伝っていただきながら、職員と一緒に暮らしを楽しんで頂く支援を行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人様の支援の方向性について、面会時等にご家族様を交え、話を行うようにしている。ご家族様に協力して頂けるようなことは、極力協力して頂けるようお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会はいつでも来て頂けるようにしており、外出や旅行などもご家族様の協力により出かけられている。また、ドライブなどで懐かしい場所などに立ち寄るなどの支援もしている。	共用型のデイサービスを始めたことで、デイサービスの利用者とホームの利用者が、友人・知人の関係である方もあり、お互いに交流の機会にもつながっている。また、家族との外出の機会がつかられており、利用者により、定期的に外出している方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	席の配置等の工夫により、関係形成に努め、孤立されることのないよう配慮している。また、隣のユニットのご利用者様(昔からの知人等)との交流により、関係維持をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ホーム退所後も、ご家族様と連絡を取り合い、必要に応じて、フォロー(相談)を行なっている。また退去時に何かあれば、気軽に相談して頂くよう伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	1対1で接している際などに、ご本人様の思いを汲みとるように努めている。また、思いを表現できない方については、生活歴を見たり、ご家族様に確認するなどし、ご本人様本位になるよう努めている。	担当制も活用しながら利用者の把握が行い、定期的に利用者の状況を確認する取り組みが行われている。また、ユニット会議を通じてカンファレンスを実施しており、重視している「個別ケア」が実現するように、利用者一人ひとりの意向等の検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時のアセスメントにて、生活史、生活サイクル等をお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の表情、体の状態を細かく記録に記入し、全職員が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人様、ご家族様からのご希望を元に、現状に即したケアプランの作成に努めている。また入院を含めた状態変化時には、カンファレンスを行い、見直しを行なっている。	介護計画については6か月での見直しが行われているが、状態等の変化に合わせた見直しも実施している。また、日常的にも介護計画の内容に合わせて記号を転記する等、毎月のモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	毎月のモニタリングは実施されているが、モニタリング表をつくっていないこともあるため、毎月のモニタリング記録を残し、定期的な評価につながる取り組みにも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース記録、ケア日報、申し送りノートに状態の記入をし、情報共有を行なっている。介護計画のモニタリングにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人様の状況に応じ、ご家族様との話し合いの上、柔軟に支援できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ご利用者様の状況に合わせたサービスをその都度提供できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前のかかりつけの病院への継続希望がある場合には、ご家族様の意向に沿うように努めている。ホームの主治医として、老年科・内科とあるが、ご家族様の希望を聞いた上で受診している。ホーム担当の薬剤師が立会い、両科の医師と連携を取っている。	訪問診療専門の医師による支援が行われており、夜間、休日等の際にも柔軟な対応が可能な体制がつけられている。受診についても家族とも連携しながら、ホームでの対応が行われている。また、毎週の訪問看護による健康チェック等の支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師とは24時間連絡体制を確保しており、その都度状況報告、必要に応じ、指示をいただいたり、連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時等は面会を適時して状態把握に努め、ご家族様とも連携を密に取り合い、退院後の支援等の話し合いを行なっている。主の病院のMSWと連携体制を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時にホームでの重度化時の対応指針を掲示し、説明を行なっている。重度化、ターミナル期に入る可能性を示唆された場合には、ご家族様同席の上、医師、看護師、薬剤師、ホーム職員と話し合いを行い、方針を決定し、支援を行なっている。	看取り支援について、協力医、訪問看護とも連携しながら支援が行われている。家族からもホームでの最期を希望される方が多く、ホームで可能な支援についての話し合いが行われている。また、ターミナル研修等の取り組みも行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	応急手当講習への参加をした職員もいるが、していない職員もいる為、今後応急手当講習への全員参加が必要。マニュアルはあるものの、実践力という点では弱い部分もある為、今後実践の強化が必要。ホームにはAEDが設置されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	夜間想定・昼間想定避難訓練を各1回年2回実施している。消防署に参加していただき、消火訓練を行なっている。地域住民の参加は現在できておらず、今後呼びかけの強化を図っていく。	今年度、関連事業所との合同の避難訓練を実施している。職員間の連携に取り組みながら、消防署職員の立ち合いも行われている。デイサービスの利用者も参加して訓練の実施も行われている。また、ホーム内に必要な備蓄品の確保も行われている。	地域の方との相互の協力関係につながるように、ホームの継続的な取り組みに期待したい。また、水害も想定した訓練の実施等、ホームの新たな取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	トイレの扉は締めるという基本的なプライバシー確保から、お話する際は目線を合わせ、ご利用者様に敬意を持って接するよう努めている。	利用者を尊重した対応を行うように、職員の入社時にも説明を行いながら、言葉遣い等を理解するような取り組みが行われている。また、接遇に関する職員研修が行われており、振り返りの取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	開かれた質問に心がけ、ご本人様の思いや、希望を気兼ねなくお世話できる信頼関係づくりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その時その時に応じ、ご利用者個々のやりたいことや、したいことなどのご希望をお聞きし、要望があればできる限り要望に合わせたレク等の提供に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご利用者様自身で、好みの洋服を選んで頂いたり、ホーム職員と一緒に髪を整えたりし、身だしなみやお洒落に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節感のある料理や、ホームで採れた野菜の提供を行なっている。ご利用者様とホームの職員が同じテーブルで同じ食事をするようにしている。食事の準備や、調理の際の味見をご利用者様に行なって頂いたりする。	食材業者のメニューにより調理を行っているが、買い物により食材を調達した食事作りも行われている。季節に合わせた行事食やおやつ作りや利用者の身体状態に合わせた食事形態の配慮も行われている。また、食事の際には職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の嚥下状態に合わせた食事形態での提供をしている。食事量・水分量は毎回チェックし、健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、個々に合わせた口腔ケアを行なっている。また定期的に歯科衛生士による口腔内清掃及び職員への指導も行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表にて、排泄リズムの把握を行い、出来る限りトイレ誘導にて排泄ができるよう支援している。	排泄状態の記録を残しながら、日常的に職員間での情報を行い、トイレでの排泄を継続できるように取り組んでいる。また、協力医との連携を深めながら、排泄に関する医療面での対応も行われており、利用者により下剤が減る等の改善した事例も得られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	ヨーグルト・牛乳等の乳製品の提供や、水分量の把握、腹部マッサージ等により、便秘にならないよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴を嫌がられる方については、時間をずらしたり、翌日に変更したりと柔軟に対応している。	基本週3回入浴できるように取り組んでおり、入浴を拒む方についても声かけを工夫する等の対応が行われている。浴槽が特殊浴槽でもあるため、重度の方にも対応した設備が整えられている。また、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等の取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご利用者様のリズムに合わせてお声かけさせていただき、休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬(特に安定剤)の副作用による傾眠や、歩行不安定に留意し、過剰投与にならないよう、服薬内容を把握し、状態に応じて医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者様の好みを把握し、編み物・カラオケ・園芸等をして頂いている。家事手伝いなど、出来ることは日々の生活の中で行なってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候の良い日は、ホームの遊歩道を散歩して頂いたり、花を植えて頂いたり、ご自由に生活して頂いている。またご希望のご利用者様には、近くの公園や喫茶店へお連れし、外出を楽しんで頂いている。	ホーム内の広い庭の整備を進め遊歩道をつくったことで、利用者のその日の状況で散歩をすることができる。毎月のように外出行事を行っており、季節に合わせた花見や紅葉の他にも、市外の公共施設への外出行事の取り組みも行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご利用者様個人で所持はされていないが、職員がお預かりし、必要に応じて使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状や暑中見舞いハガキなどの支援を行なっている。電話はご家族様の了解の上でご希望があればその都度支援させて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングには観葉植物や花を飾り、壁には季節感を感じていただけるよう、四季に応じた壁飾りを飾っている。トイレ・浴室は清潔感を心がけ、不快にならないよう換気にも気をつけている。	ホーム内は広く、明るい雰囲気であり、利用者が日中をリビングで明るく過ごすことができる。広い庭には様々な植物が植えられてあり、日常的に季節を感じるができる。また、ホーム内に行事等の写真が掲示されており、ホームの様子を伝えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングでは、ソファで気の合うご利用者様同士が語り合われたり、好きなテレビ番組を見られたりしている。またリビングから中庭に出られて、ウッドデッキにあるベンチからお庭を眺められ、ゆったりと過ごされる方もみえる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室はご家族様にも協力を頂き、出来る限り使い慣れた家具などを設置させて頂いている。	居室についても明るくゆったりとした空間が確保されていることで、利用者により、居室で過ごしている方もいる。また、利用者、家族の希望に合わせた様々な物の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	場所をわかりやすくするよう、トイレの表示や、居室のネームプレート等の設置を行なっている。		